

A. 主な動き

1. 内政

▼クチマ元大統領に対する刑事事件

・22日、検事総局は、2000年のゴンガゼ記者殺害事件につながる違法な指令を内務省に下した権限逸脱の疑いで、クチマ元大統領(1994～2005年)の取り調べ開始を発表。

・23日、クチマ元大統領は、取り調べの開始は「青天の霹靂」であったが、本件に関する罪の意識は無く、自分は至って冷静である旨発言。

・23日及び24日、検事総局はクチマ元大統領の取り調べを実施。23日、検事総局は、クチマ元大統領への出国制限を通告。24日、クチマ元大統領は、検事総局により追訴を通告された旨公表。

▼ティモシェンコ前首相のブリュッセル訪問

・24日、ブリュッセル滞在中のティモシェンコ前首相は、フィーレ欧州拡大・近隣政策担当委員、ブゼク欧州議会議長及びマルテニス欧州人民党党首等と会談。フィーレ委員は、政治的目的による刑法利用の防止の必要性を指摘、ウクライナ・欧州関係構築の速度及び深度は、民主主義的価値観の尊重如何によって決定される旨の声明を発表。

・25日、欧州人民党は、ティモシェンコ前首相の来訪を歓迎、ウクライナの法制度及び司法機関が野党に対する圧力として利用されている現状への懸念を表明。

▼その他

・21日、最高会議は、社会における若年層の経済活動支援等を目的とした、ヴィクトル・ヤヌコーヴィチ地域党議員(ヤヌコーヴィチ大統領の息子)を含む最高会議議員24名による会派間同盟「若者の選択」の結成を発表。

・22日、教育関係者約7,000名が閣僚会議周辺で抗議活動を実施。法で定められている給料水準の引き上げ等を要求。23日、閣僚会議は、9月より全ての教育関係者の給料を20%相当上乗せすることを決定。

・24日及び25日、リトヴィン最高会議議長は「閣僚会議に関する」法律改正案及び「行政府中央機関に関する」法案に署名、ヤヌコーヴィチ大統領に送付。

2. 経済

▼マクロ経済

・24日、中央銀行は、2011年及び2012年のGDP成長率は4～5%、2011年のインフレ率は10±1%、2012年のインフレ率は7±1%との予測を発表。

・25日、国家統計サービスは、2月の平均給与は前月比1.8%増の2,338グリブナと発表。

▼年金改革とIMF

・19日、ヤヌコーヴィチ大統領は、年金改革法案の最高会議での議論は時期尚早であるとし、アザーロフ首相に対し、年金改革と同法案に関する公の議論を実施するように要請。

・21日、プロトニコフ地域党議員は、4月5日～8日に開催される第一読会において年金改革法案を審議予定と発言。

・23日、チギブコ副首相は、年金改革法案が採択されなければIMFによる次回トランシェのディスバースは無い、また、IMFの支援が得られなかった場合、ウクライナの格付けに大きく影響するであろうと発言。

・24日、アザーロフ首相は、融資の拒否は可能だが、金融情勢を鑑みるとIMFとの協力の停止はウクライナにとって有益ではない旨発言。

▼チェルノブイリ事故25周年関連行事

・24日、外務省は、G8との協力によるチェルノブイリ支援会合(4月19日)、国際会議「チェルノブイリ事故25周年ー未来の安全」(4月20～22日)の開催を発表。

▼ガス問題

・21日、アザーロフ首相は、ウクライナのガス輸送システムの近代化にあたっての海外投資の割合は今後決定されることになるが、いずれにせよガス輸送システムはウクライナが管理を行い、ウクライナが所有することになる旨説明。

・21日、ヤヌコーヴィチ大統領は、ナフトガス社の財政基盤安定及び投資プロジェクトを実現するために、要すれば、ナフトガス社の株式の一部を国際市場で売却することも必要と発言。

・22日、ボイコ・エネルギー・石炭産業相は、ナフトガス社の株式が欧米市場で販売されることになる旨発言。

▼その他

・19日、アザーロフ首相は、EUとの自由貿易圏に関し、ウクライナの農産品や道路輸送への割当導入は受け入れ難く、仏及び独と個別に協議を実施したい旨要請。割当の導入を主張するのであれば、今後割当量を増加するという条件下で合意する用意がある旨発言。

・22日、環境・天然資源省は、世界環境基金がウクライナの実地プロジェクトに対し4,000万ドルを供与と発表。

3. 外政

▼25～27日、ヤヌコーヴィチ大統領のベトナム訪問

・26日、ヤヌコーヴィチ大統領及びチエット・ベトナム国家主席が議長を務め、ウクライナ・ベトナム政務協議が開催。ヤヌコーヴィチ大統領は、二国間のハイレベルに存在していた休止期間は既に過去の物となった旨発言。両国首脳は、

包括的協力及びパートナーシップ発展に関する共同声明及び7つの文書に署名。

・26日、ヤヌコーヴィチ大統領は、ウクライナはマルチ・ベクトル外交を展開、東南アジア及び太平洋諸国との実利的な互恵関係を構築しつつある旨述べ、今回のベトナム訪問並びに先の中国及び日本訪問は互いに補完するものである旨発言。

・26日、ヤヌコーヴィチ大統領は、ズン・ベトナム首相と会談、貿易経済問題を含む二国間関係の諸問題につき協議。ヤヌコーヴィチ大統領は、2011年秋にキエフにおいて開催される予定の第12回ウクライナ・ベトナム政府間委員会にズン・ベトナム首相を招請。

▼その他

・22日、第4回ウクライナ、ポーランド及びリトアニア議会の議員会議がキエフにおいて開催。

・22日、外務省は、外国によるリビアの占領を禁止する国連安全保障理事会決議を支持する旨発表。

・22日、外務省は、ウクライナの国外におけるイメージ戦略を発表。

4. 防衛

▼エジェリ国防相のモスクワ訪問

・25日、エジェリ国防相とセルジュコフ露国防相がモスクワにおいて会談。NITKA空母飛行訓練コンプレクス、ウクラ

イナ船舶修理・造船工場の使用及びアントノフ社航空機プロジェクト等二国間の軍事技術協力を議論。会談後、エジェリ国防相は、近い将来セルジュコフ露国防相とともにウクライナの防衛産業施設を視察する予定と発言。

▼リビア関連

・22日、国防省は、ウクライナ空軍のイリュージン (IL) 76MD及びアントノフ (An) 26ヴィータによりリビアからウクライナ国民を避難させる用意が出来ていると発表。

・23日、外務省は、ウクライナが自国民避難のため、リビアに向け大型水陸両用艦艇「Kostiantyn Olshansky」を派遣したと発表。

▼黒海艦隊

・22日、外務省は、ウクライナとロシアは露黒海艦隊設備が展開するクリミアの自治体における緊急事態防止政府間協定に合意したと発表。

▼その他

・24日、国防省は、EU軍事専門家とウクライナ海軍との会合がセヴァストポリにおいて開催されたと発表。ウクライナ海軍は、海賊対処EUアトランタ作戦に参加するためにBe-12水陸両用飛行艇の準備を開始している。

B. その他の動き

3/22 (火)

・クリムキン外務次官は、NATO本部を訪問、ピゾニエロNATO事務次長等と会談。

3/24 (木)

・グレコカトリック教会(ウクライナ東方典礼カトリック教会)は、2月上旬に退位したフォーザル前枢機卿の後任にスヴァトスラ

フ・シェフチューク枢機卿を選出。

・エジェリ国防相は、行政改革の一環として国防省改革に関する提案を大統領府に提出したと発言。

3/25 (金)

・ローマ法王ベネディクト16世は、スヴァトスラフ・シェフチューク枢機卿の就任を承認。

(了)